

神戸の沿革

神戸の歴史は、その川と密接な関係を持っています。

浜清み浦うるはしみ 神代より千船の泊つる大輪田の浜 (万葉集)

六甲山系の花崗岩は深層まで風化され脆くなっており、風雨が山を削り、大量の土砂が川に運ばれて海岸に三角洲を、あるいは潮流に運ばれて岬を作り、その陰に船を安全に停泊できる入り江を生み出しました。後背地に乏しい神戸は畿内から西日本、そして果ては中国大陸へと続く航路上の信頼できる停泊地として歴史上常に重要な役割を担ってきました。

水門川 夜船漕出る追風に 鹿の声さへ瀬と渡るなり (千載集)

澁川（水門川）や生田川などが吐き出し、潮流が運ぶ大量の土砂により海岸線は絶えずその位置や形状を変えました。より安定した停泊地を求めて、平清盛は塩樋山を崩した土砂で面積35ヘクタールにも及ぶ「経が島」を築造し、「大輪田泊」を大陸貿易の拠点港としました。以後、応仁の乱による政情不安により大陸貿易航路が瀬戸内海からより安全な四国沖へと移ると、堺にその地位を譲りました。

春の海 ひねもすのたりのたりかな (与謝蕪村)

やがて、堺の港が大和川からの土砂流入により大型船の停泊が困難になったこともあり、江戸時代に入ると国内航路の中心地「兵庫津」として再興し、廻船問屋が軒を並べました。俳人の与謝蕪村はしばしば兵庫の豪商を訪れましたが、その時に須磨の海を見て詠んだのがこの句とされています。

幕末に開港し、国際貿易の中心として発展を始めた神戸はその後幾度も洪水による大きな被害を受けましたが、その試練を乗り越え、河川が気まぐれに運ぶ土砂ではなく、山から人工的に運んだ土砂により新たな国際港湾都市を創りあげました。

市域と人口

明治元年に、走水村、二ツ茶屋村、神戸村からなる「神戸町」がつくられ、明治22年4月1日には神戸市が誕生しました。当時の市域は中央区と兵庫区の一部に過ぎず、面積は現在の4%未満、人口も9%未満に過ぎませんでした。



その後、周辺町村との合併や臨海部の埋め立てにより市域面積は553.12km²まで拡大しました。人口は、阪神大震災により震災直前の152万人から一時的に142万人まで落ち込みましたが、その後、平成22年には約154万人まで回復しています。

区 別	面積(km ²)	人口(人)
東灘区	30.37	210,408
灘 区	31.40	133,451
中央区	28.75	126,393
兵庫区	14.56	108,304
北 区	241.73	226,836
長田区	11.46	101,624
須磨区	30.00	167,475
垂水区	26.83	220,411
西 区	138.02	249,298
全市計	553.12	1,544,200

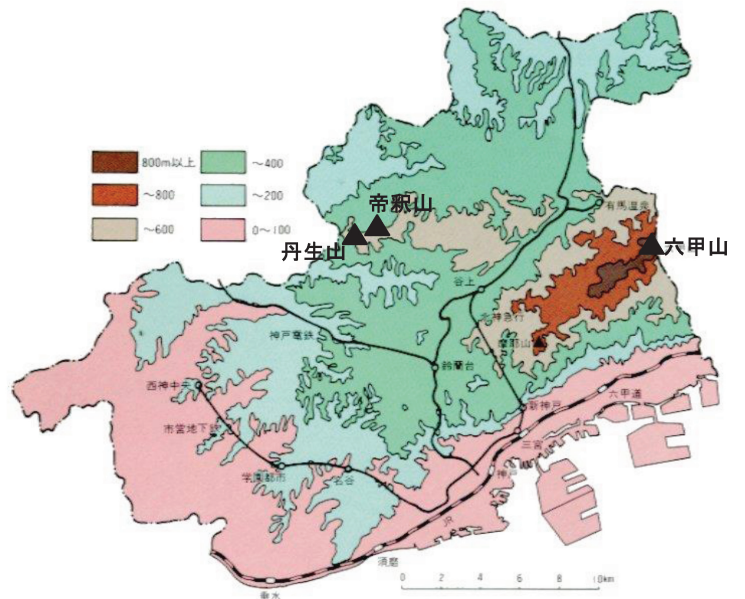
(注) 面積は平成27年1月現在
人口は平成22年国勢調査による。

神戸市の地形・地質・気候

神戸市の地形

神戸市は、地形上六甲山系（最高峰931m、東西約30km、南北約8km）により南北に二分されています。大阪湾に面した南側は、六甲山系の山麓部と、そこから流れ出る中小河川による扇状地、海岸低地及び埋立地によって構成されています。この地域に神戸の中心部が位置しており、「坂のある街神戸」という代表的な景観を創出しています。

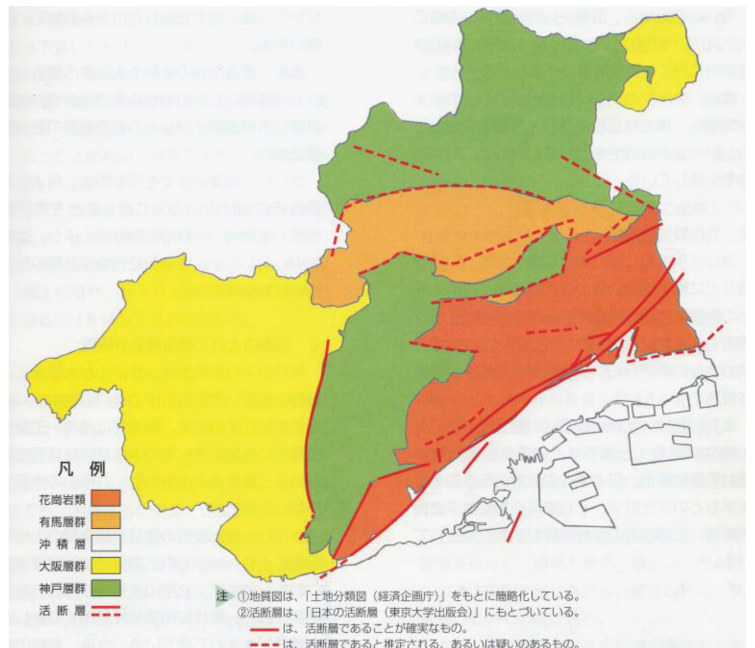
一方、北側は、帝釈・丹生山系を中央にして、緩やかな丘陵とその間を流れる明石川水系沿いの段丘や、播磨平野に連なる平野部で構成されている西神地域と、丘陵地が波状に広がる北神地域によって構成されています。



神戸市の地質

神戸周辺の地質は、六甲山地に露出する花崗岩類などの基盤岩類と、それらを覆って堆積した被覆層に大別されます。

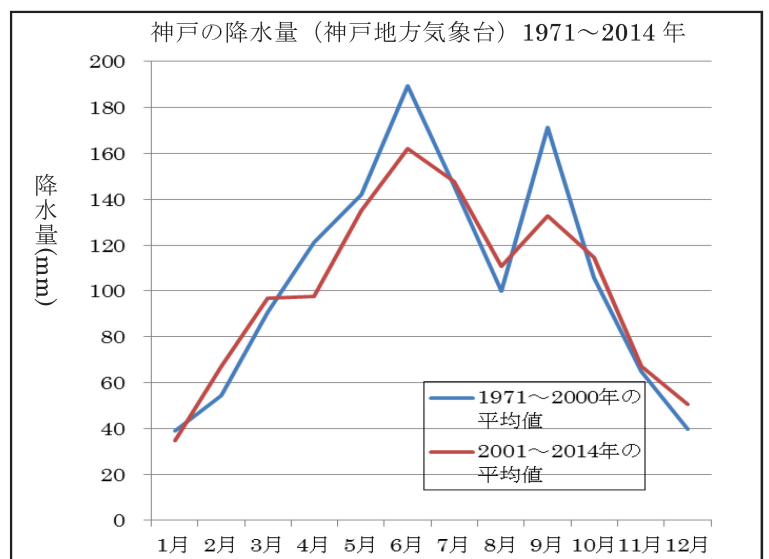
神戸を語る時に欠かすことのできない六甲山系は、70～80万年前の地殻変動による激しい上昇運動と大阪湾の沈降運動によってできたものと言われています。断層が多く、山地を構成する花崗岩は、全体的に著しく風化しています。このために、六甲山系は地質が脆弱で特に表六甲（六甲山系の南側）は地形が急峻なため、豪雨による山崩れや土石流などの災害が発生しやすい特徴を持っています。



神戸市の気候

神戸市は、全般的には瀬戸内海型の気候に区分されます。このため、六甲山系の南側では、瀬戸内海の影響を受けて比較的温暖な気候となっていますが、北側では海拔高度もあり、これに比べてやや寒冷な気候となっています。

六甲山地は市民の憩いの場である一方で、気象学的には低気圧や前線の前面で上昇気流が発生しやすく、時として豪雨をもたらす場合があります。



神戸を流れる河川

神戸市を流れる河川は、大別すると次の5つに分類することができます。

③加古川水系河川

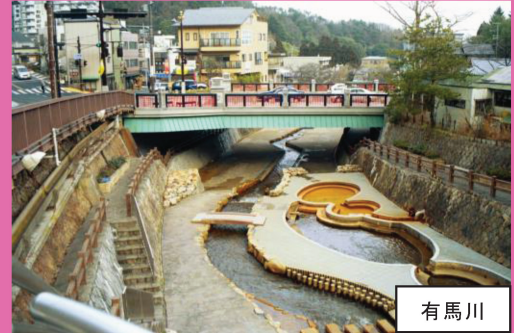
六甲山系北側から三木市・加古川市を経由して、播磨灘に流れる河川。
帝釈山系などの山間部から、溪流を集めて流れる河川です。



志染川

④武庫川水系河川

六甲山系北側の丘陵地を北上し、宝塚市・西宮市を経由して、大阪湾に流れる河川。
流域には、神戸の奥座敷である有馬温泉があります。



有馬川

⑤瀬戸川水系

西区神出町に源を発し、岩岡町・明石市を経由して播磨灘に注いでいます。



②明石川水系河川

六甲山系西側の平野部から明石市を経由し、明石海峡に流れる河川。
伊川・樫谷川を支流とし、田園地帯を緩やかに流れる自然に恵まれた河川です。



樫谷川

①表六甲河川群

六甲山系南斜面から市街地を通り、大阪湾に流れる河川。
小規模な河川ですが、表六甲の地形や土地利用の特性により、短時間に多量の降雨が流出する河川です。



六甲川